

■ 使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■ 使用評価ソフト: CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	第一港運・三和商運響灘倉庫	BEE	0.6	BEEランク	B-	★★
------	---------------	-----	-----	--------	----	----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点※/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.0 /5		ふつう 
2 地球温暖化対策の推進	2.7 /5		がんばろう 
3 豊かな自然環境の確保	1.0 /5		がんばろう 
4 高齢社会への対応			
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	
		よい 4 点以上	
		ふつう 3 点以上	
		がんばろう 3 点未満	

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2014年版		使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v2.0)	
1 循環型社会への貢献		スコア平均 3.1	
リサイクルに関する配慮		長寿命化に関する配慮	
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 2.8	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 2.8
		Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3.6
特に無し		ゆとりあるスペースを確保している	
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均 2.7	
省エネ・省資源に関する配慮		節水に関する配慮	
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 4.4	LR2/ 1.1 節水	スコア 1
ライフサイクルCO2排出量65%		特に無し	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均 1.0	
生態系保全に関する配慮		緑化に関する配慮	
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 1
		LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 1
特に無し		特に無し	
4 高齢社会への対応		スコア平均 #DIV/0!	
バリアフリーに関する配慮		主な指標	
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア	建物の外皮性能 (BPI評価)	
<自由記述>		非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級	
		建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価)	
		非住宅:BEI値、住宅: -	
		外構緑化指数	
		建物緑化指数	

: 入力欄

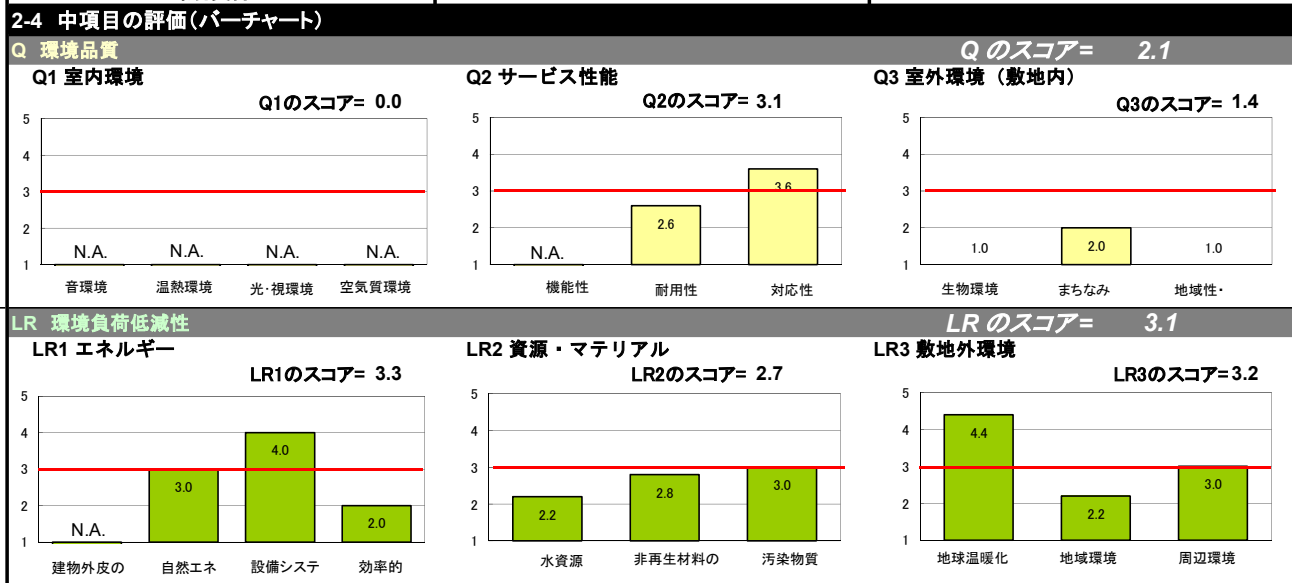
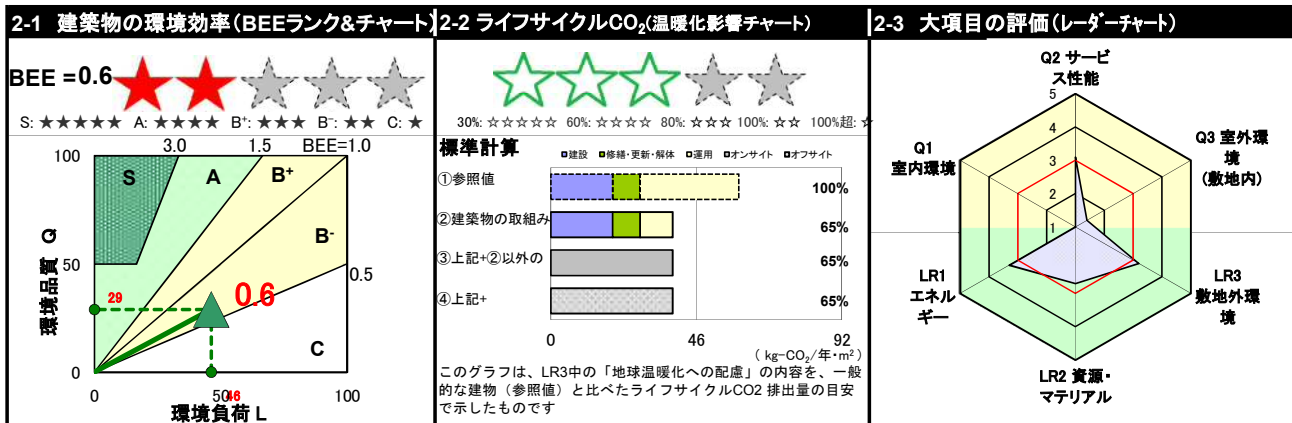
: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	第一港運・三和商運響灘倉庫工事	階数	地上1F	
建設地	北九州市若松区響町1丁目105-25	構造	S造	
用途地域	工業専用地域、臨港地区、景観形成	平均居住人員	2 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	1,680 時間/年	
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2017年5月 予定	評価の実施日	2016年12月1日	
敷地面積	5,003 m ²	作成者	猪又	
建築面積	2,208 m ²	確認日	2016年12月1日	
延床面積	2,208 m ²	確認者	溝部	

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
お客様の大切な荷物を預かるため縦横高さのスペースを無駄なく活用できるようにバランスを考慮し設計しました。		特にありません。
Q1 室内環境 評価対象外	Q2 サービス性能 フォークリフト等が安全に作業ができるように床の平滑性を重要視しました。	Q3 室外環境 (敷地内) 敷地内で車両の待機等ができるように建物前面に十分な駐車スペースを確保しました。
LR1 エネルギー 特にありません。	LR2 資源・マテリアル 特にありません。	LR3 敷地外環境 特にありません。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2014年版
第一港運・三和商運警備倉庫工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						2.1
Q1 室内環境						
1 音環境		-	-	-	-	-
1.1 騒音		-	-	-	-	-
1.2 遮音		-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能		-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-
1.3 吸音		-	-	-	-	-
2 温熱環境		-	-	-	-	-
2.1 室温制御		-	-	-	-	-
1 室温		-	-	-	-	-
2 外皮性能		-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-	-
2.2 湿度制御		-	-	-	-	-
2.3 空調方式		-	-	-	-	-
3 光・視環境		-	-	-	-	-
3.1 昼光利用		-	-	-	-	-
1 昼光率		-	-	-	-	-
2 方位別開口		-	-	-	-	-
3 昼光利用設備		-	-	-	-	-
3.2 グレア対策		-	-	-	-	-
1 昼光制御		-	-	-	-	-
3.3 照度		-	-	-	-	-
3.4 照明制御		-	-	-	-	-
4 空気質環境		-	-	-	-	-
4.1 発生源対策		-	-	-	-	-
1 化学汚染物質		-	-	-	-	-
2 発生源対策		-	-	-	-	-
4.2 換気		-	-	-	-	-
1 換気量		-	-	-	-	-
2 自然換気性能		-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮		-	-	-	-	-
4.3 運用管理		-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	-
2 喫煙の制御		-	-	-	-	-
Q2 サービス性能		-	0.43	-	-	3.1
1 機能性		-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	-	-
1 広さ・収納性		-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画		-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	-
1 広さ感・景観		-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	-
3 内装計画		-	-	-	-	-
1.3 維持管理		-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	-
3 維持管理費		-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性		2.6	0.50	-	-	2.6
2.1 耐震・免震		3.0	0.50	-	-	-
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	-
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数		2.8	0.30	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20	-	-	-

2.4 信頼性	1	空調・換気設備		1.6	0.20		-	
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		-	
	3	電気設備		1.0	0.20		-	
	4	機械・配管支持方法		1.0	0.20		-	
	5	通信・情報設備		2.0	0.20		-	
				3.6	0.50		-	3.6
3 対応性・更新性								
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30		-		
	1	階高のゆとり	階高=7m	5.0	0.60		-	
	2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率=0.099	5.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30		-		
3.3 設備の更新性			3.2	0.40		-		
	1	空調配管の更新性	構造部材を痛めることなく修繕、更新できる	3.0	0.20		-	
	2	給排水管の更新性		4.0	0.20		-	
	3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
	4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	1.4	
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30		-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40		-	2.0	
3 地域性・アメニティへの配慮			1.0	0.30		-	1.0	
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	1.0	0.50		-		
	3.2	敷地内温熱環境の向上	1.0	0.50		-		
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.1	
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.3	
1 建物外皮の熱負荷抑制				-		-	-	
2 自然エネルギー利用			3.0	0.13		-	3.0	
3 設備システムの高効率化			BEI 非住宅 0.33 住宅(専有部) -	4.0	0.63		4.0	
	集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEI値=0.33≤0.90	4.0	1.00			
	集合住宅の評価(3c)				-			
					-			
4 効率的運用			2.0	0.25		-	2.0	
	集合住宅以外の評価		2.0	1.00		-		
	4.1	モニタリング	3.0	0.50		-		
	4.2	運用管理体制	1.0	0.50		-		
	集合住宅の評価			-		-		
	4.1	モニタリング		-		-		
	4.2	運用管理体制		-		-		
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.7	
1 水資源保護			2.2	0.20		-	2.2	
	1.1	節水	1.0	0.40		-		
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用	3.0	0.60		-		
	1	雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70		-		
	2	雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30		-		
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60		-	2.8	
	2.1	材料使用量の削減	2.0	0.11		-		
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.22		-		
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.22		-		
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.22		-		
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	-	-		-		
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体、仕上げ材、内装、設備等を容易に分離できる	5.0	0.22		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20		-	3.0	
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	3.0	0.30		-		
	3.2	フロン・ハロンの回避	3.0	0.70		-		
	1	消火剤	-	-		-		
	2	発泡剤(断熱材等)	3.0	1.00		-		
	3	冷媒	-	-		-		
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2	
1 地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO2排出率が65%	4.4	0.33		4.4	
2 地域環境への配慮			2.2	0.33		-	2.2	
	2.1	大気汚染防止	燃焼機器を使用していない	5.0	0.25		-	
	2.2	温熱環境悪化の改善		1.0	0.50		-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.0	0.25		-	
	1	雨水排水負荷低減		-	-		-	
	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33		-	
	3	交通負荷抑制		2.0	0.33		-	
	4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.33		-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33		-	3.0	
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止	3.0	0.40		-		
	1	騒音	3.0	0.50		-		
	2	振動	-	-		-		
	3	悪臭	3.0	0.50		-		
	3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制	3.0	0.40		-		
	1	風害の抑制	3.0	0.70		-		
	2	砂塵の抑制		-		-		
	3	日照障害の抑制	3.0	0.30		-		
	3.3	光害の抑制	3.0	0.20		-		
	1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	3.0	0.70		-		
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30		-		